

# コラム

2006/09 (4)

こんにちは。副園長の佐藤です。もう夏休みが終わって一ヶ月近くになりますが、どこかへ出かけられましたか？何が楽しかったですか？

## ひよんな御縁で冒険に

我が家はこの夏、子ども達とチャレンジをしました。「自転車でお台場まで行く！」というものです。友達の友達がテレビ局のディレクターをしていて、「子育てするお父さん」番組を企画していた所、私を紹介されたのが、実はきっかけです。

番組は8月の終わり、深夜に放映されました。ご覧になった方もいらっしゃるかも知れません。コーナーは「コドモと旅する」。日常から離れた経験を通して、何かメッセージを、パパから伝える…そんな視点でした。

打ち合わせで、「言葉で話してもよく分からない年代（4才）だから、一緒に経験して旅を味わいます」とか分かったような事を言いながら、地図を広げて計画を練りました。

## 思い起こせば

もう10年も前になるでしょうか、当時おいでになっていた体育の先生から「子どもは1日何キロ位歩けると思う？」と問われ、全く見当がつきませんでした。そんなこと考えたこともない。交通網の発達した、ここ文京区に住む子どもは、何キロも歩く必要はないのです。

ですから、長女が歩けるようになって、それが嬉しくてしょうがない様子なので、何度かチャレンジして伝通院から茗台中学校を回って歩いてきたときは感動しました。たしか1才何ヶ月。1時間以上はかかったと思います。

この時得たのは信頼です。「この子は、これだけ歩ける」と。それが種になって、子どもと歩くのが好きになりました。勿論こちらに時間の余裕のある時だけです。「抱っこして」「おんぶして」攻撃は、「疲れたなら休もうね」+「お茶のもうか」でやり過ぎし、休憩はこまめに取るように心がけました。その後、大塚・池袋・銀座と足を延ばし、今年2月は増上寺（芝公園）まで歩き通しました。

話だけ聞くと「えっ本当？」という感じなのですが、「やってみれば案外

簡単だった、楽しかった」というのはテレビをご覧になって挑戦した方（在園生保護者）の感想です。

## そして自転車シリーズへ

今年の4月から、長男が自転車に乗れるようになったので、交通ルールを教えながら「自転車旅」が始まりました。神宮外苑、皇居、六本木…。お台場行きはその一環でもありました。所要時間3時間30分…暑かったです。でも、「連れて行ってもらったんじゃない、行ったんだ」と胸を張って言わせてやりたかったんです（本人の感想は、「観覧車楽しかった」でした）。

余談ですが連なって走るのは結構神経を使います。車やバイク・交差点はもちろん、歩行者への対応のため、何度となく振り返ります。怪我をした事もありました。絆創膏もなく、血をダラダラ流してタクシーで帰宅しました（自転車は「放置」です）。ありがたくも、妻はハラハラしながら、それを抑えて送り出してくれています。

でも、行動範囲が広がる、自分の力で行ける、というのは絶対的な喜びのようです。移動の自由を手に入れた、という所でしょうか。

## 「旅する」の2つの要素

今考えると、自転車やバイクのツーリング、車でのドライブなどは、「目的地への移動」とは根本的に違うことが分かります。その原点は、「歩くこと自体が嬉しくてしょうがない」という姿ではないでしょうか。

きちんと勉強した訳ではないのですが、ドイツの心理学者、カール・ビューラーという人が「機能快」という言葉を使いました。「私たちの体が持つ、様々な機能。それが最大限に使われる時、私たちは快感を感じる」というものだそうです。走っている子どもは、笑っています。あの日長い坂を登り切った時、子ども達はやっぱり、笑っていました。そして私も。

何かを「すること自体」を楽しむ。うまく表現できないのですが、子どもが楽しむのは、「名詞」よりも「動詞」なのではないか、と思います。

子どもは面白いです。表情からすれば、明らかに自転車の方が観覧車より面白かったはずですが、でも、殆どその通りには言いません。こちらが期待する答えを、察知しているからに違いありません。肩すかしを喰らわせたつもりなのでしょう。私の返事は「そうかそうか、よかったな」でした。